

穂別町立博物館報

第 8 号

(平成2年度)

穂 別 町 立 博 物 館

目 次

沿	革	1
施 設 の 概 要		3
展 示 活 動		4
収 蔵 資 料 概 要		4
資 料 収 集 保 存 活 動		5
調 査 研 究 活 動		6
普 及 教 育 活 動		7
運	営	8

● 沿革 (この博物館は、国の公立社会教育施設整備事業および北海道市町村新興補助事業の補助を受け建設されたものである。)

昭和50年6月 荒木新太郎氏(穂別町・板金業)が宇長和、サヌシベ川の枝沢で、化石骨のはいったノジュールを発見、一部採集。

昭和51年9月 佐藤昌人指導員(苫小牧青少年センター)・佐藤隆久教諭(穂別町仁和小学校)が、荒木氏の発見した化石を撮影。国立科学博物館に送付、長谷川善和主任研究員に鑑定を依頼。

昭和52年2月 長谷川主任研究員の鑑定結果、北海道新聞で報道。白亜紀後期の海棲爬虫類の鱗状になった前・後肢いずれかの骨格の一部と確認。

昭和52年7月5～8日 穂別町首長竜化石発掘調査団、結成。発掘調査。

昭和53年5月 長頸竜化石クリーニング作業開始。(於:旧・さくら保育所施設)

昭和53年11月 穂別町立郷土資料館、開館。(旧・さくら保育所施設利用)

昭和54年3月5日 長頸竜化石骨、穂別町指定文化財第2号に指定。

昭和55年10月16日 第1回穂別町郷土資料館建設計画検討委員会開催。北川芳男学芸部長(道開拓記念館)、講話。話題「特色のある郷土資料館づくりとは」

昭和55年11月26日 第2回検討委員会開催 建設の目的、設定。
<建設の目的>
本町は、クビナガリュウをはじめデスマスチルス、海ガメなど多くの動植物の化石が発見されることから、道内でも特異な地質条件にあることが予想される。こうした自然環境を背景に、先人は寒冷地での生活に耐え抜いて開拓の苦闘に打ち勝って穂別

の歴史を展開してきた。

穂別町開基70年(町制施行20年)を記念して、本町の地質系統と生物の進化、開拓の足跡を示す歴史資料を収集・保存・展示して、先人がいかに自然との調和を図りながら開拓を進めてきたかを理解し、そして未来を創造するために穂別町郷土資料館を建設するものである。

昭和55年12月15日 第3回検討委員会開催

昭和55年12月22日 第4回検討委員会開催

昭和56年1月27日 第5回検討委員会
亀谷 隆学芸員(道開拓記念館)より展示シナリオ提示。

昭和56年3月13日 第6回検討委員会
施設平面図提示。名称を穂別町郷土資料館から穂別町立博物館に変更。

昭和56年5月22日 第7回検討委員会開催

昭和56年6月11日 第8回検討委員会
展示班・資料収集班・図書班設置。
特別協力員選出。

昭和56年6月24日 第1回展示班打ち合わせ会議
展示シナリオの分担を決定。

昭和56年7月11日 展示班視察研修。
(於:道開拓記念館)

昭和56年7月 博物館施設建築工事中

昭和56年9月1日 学芸員採用
(鈴木 茂 北海道大学大学院)

昭和56年10月29日 第9回検討委員会

昭和56年12月 博物館施設建設工事完了

昭和57年1月16日 長頸竜復元作業開始

昭和57年2月10日 第10回検討委員会
展示シナリオ最終決定。

昭和57年3月5日 第2回展示班会議開催

昭和57年3月11日 第1回資料収集班会議
資料収集方針および収集計画決定。

昭和57年3月 博物館展示工事開始

昭和57年6月 博物館展示工事完了

昭和57年7月20日 博物館開館。
一般公開開始。

昭和57年8月 第1回博物館協議会開催

昭和57年12月19日 長頸竜復元骨格展示公開
第1回特別展
「よみがえるクビナガリュウ」開催

昭和58年6月 常設展、一部展示替え
産出化石を地層別から分類別展示に変更

昭和59年2月 「よみがえるクビナガリュウ」
村上 隆 著、発刊。

昭和60年11月1日 第2回特別展
「北海道一億年」開催

昭和61年10月21日 第3回特別展
「穂別の自然」開催

昭和62年7月28日 第4回特別展
「アンモナイトの系図」開催

昭和63年8月23日 第5回特別展
「穂別のカメラ化石」開催

平成元年7月18日 第6回特別展
「穂別のむかし」開催

平成2年6月27日 博物館協議会にて、平成3・
4年度展示替え基本方針説明

平成2年8月18日 第7回特別展
「戦争と穂別」開催

● 施設の概要

位 置 北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

建築面積 1,232 m^2

(内 訳)

常設展示室 372.88 m^2

第2展示室 99.37 m^2

第3展示室 32.40 m^2

特別展示室 99.08 m^2

収 蔵 庫 86.56 m^2

事 務 室 40.50 m^2

研 究 室 31.50 m^2

整 理 室 29.92 m^2

学習展示室 184.75 m^2

書 庫 35.05 m^2

共用部門 219.76 m^2

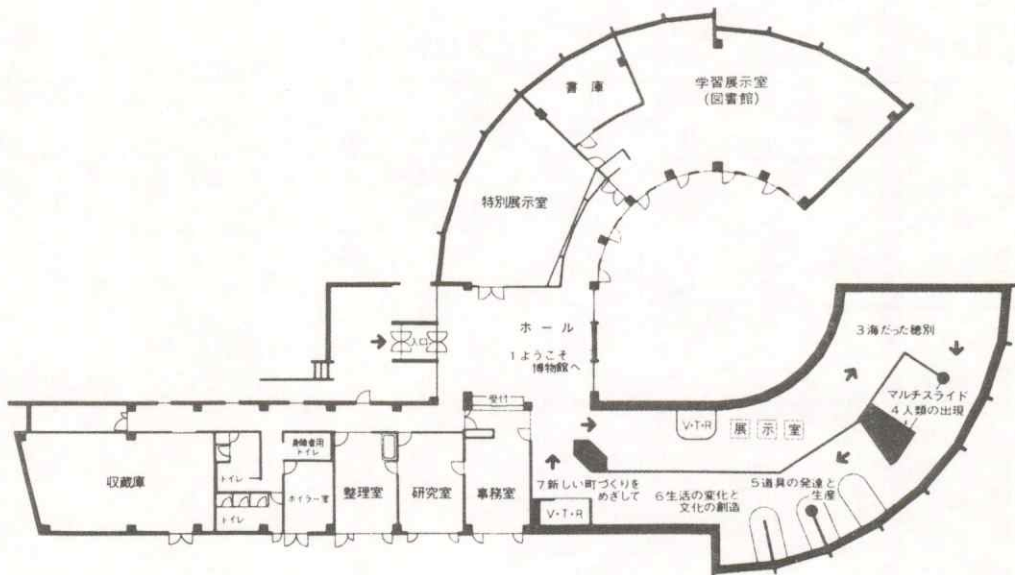
建築構造(本館)

鉄筋コンクリート平屋建

工 期 昭和56年度～57年度

総事業費 3億7千2百76万5千円

● 施設平面図



● 展 示 活 動

I 特 別 展

■ 第7回特別展「戦争と穂別」

「穂別町では、日中戦争や太平洋戦争を含む第二次世界大戦中に、百数十名もの貴い生命が失われています。

当時の穂別町の人口は、五千人程度でした。

戦争は小さな町村にも、大きな犠牲を求めます。世界が平和であるためには、多くの努力が必要ですが、「戦争の記録」を明確に残してゆくことも重要なことと考えます。」

：（特別展ポスターより）

・期 間：平成2年8月18日～9月16日

・入場者数：533名（観覧者名簿に記載した者）

・展示内容：

「戦争関連資料」；

1. 衣料関係：43点
2. 表彰関係：6点
3. 写真類：15点
4. 古地図類：2点
5. 辞令など：10点
6. 手帳など：12点
7. 証書など：33点
8. 食関連：36点
9. 信仰関連：2点
10. 新聞など：26点
11. 図書類：11点
12. 軍票など：72点
13. その他文書：1点

● 収 蔵 資 料 概 要

人文系資料

	生 活	産 業	そ の 他	計
常 設 展	120	308	194	622
第 二 展	293	511	2	806
第 三 展	96	32	21	149
（収蔵庫）	359	468	1,275	2,102
計	868	1,319	1,492	3,679

自然系資料

	動 物	植 物	そ の 他	計
常 設 展	8	0	0	8
（収蔵庫）	46	23	0	69
計	54	23	0	77

自然史系資料

	動 物	植 物	そ の 他	計
常 設 展	142	2	24	168
整 理 室	22	0	0	22
貸 出 中	5	0	0	5
（収蔵庫）	701	2	0	703
計	870	4	24	898

（1991. 3. 31 現在未登録資料は除く）

● 資料収集保存活動

平成2年4月1日から平成3年3月31日までに
寄贈、採集、寄託された資料を順に記した。

(敬称略)

I 寄 贈

【人文系資料】 2件3点
山火巡視員制服と熊追いラッパ(2点)中條桃太郎
古写真 (1点)藤岡 勝美

【自然系資料】 2件2点
野鳥(オオルリ) (1体)山越 昭一
海獣(ゴマフアザラン) (1体)石狩町役場
海亀(アカウミガメ) (2体)小樽水族館

【自然史系資料】 7件85点
くじらの骨ほか (3点)橋本 義信
アンモナイトほか (13点)解良 康治
椎骨動物化石ノジュール (1点)中井 均
アンモナイトノジュール (54点)千歳化石会
長頸竜化石ノジュール (1点)小林 一秀
長頸竜化石ノジュール (4点)三宅 俊一
アンモナイトほか (9点)小西 堅一

【その他】

阿部利春(穂別町)より寄託されていた白亜紀
カメ化石は、3月17日をもって、町立博物館に寄
贈された。

II 採 集

【自然史系資料】

字穂別ベンケオピラルカ沢

白亜紀アンモナイトほか

7月10~14日

7月17日

8月5日

III 寄 託

平成2年3月31日現在で寄託中の資料

【自然史系資料】

(敬称略)

阿部 利春 アンモナイト(1点)
荒木新太郎 アンモナイト(7点)
荒木新太郎 イノセラムス(2点)
石崎 正行 アンモナイト(2点)

【人文系資料】

(敬称略)

佐久間正雄 郷土史資料(2点)

● 調査研究活動

I 脊椎動物化石の研究

【デスモスチルス】

木村方一、北海道教育大学教授に研究委託

公表論文：

〔1984〕穂別町立博物館研究報告〔1〕、11-23.

〔1984〕松井・山口と共著

地団研専報〔28〕、51-61.

〔1985〕穂別町立博物館研究報告〔2〕、51-62.

投稿準備中

赤松守雄、北海道開拓記念館学芸員に研究委託

公表論文：

〔1984〕地団研専報〔28〕、63-68.

【クジラ】

木村方一、北海道教育大学教授に研究委託。

投稿準備中

【ウミガメ】

平山 廉、帝京技術科学大学講師に研究委託

公表論文：

〔1984〕鈴木 茂と共著

穂別町立博物館研究報告〔1〕、17-30.

投稿準備中

地徳 力、学芸員が別資料で研究開始

投稿準備中

【長頸竜】

仲谷英夫、香川大学助手に研究委託。

公表論文：

〔1981〕日本地質学会第88年学術大会

〔1982〕日本地質学会第89年学術大会

〔1982〕動物と自然、12：11-16.

〔1984〕穂別町立博物館研究報告〔1〕、37-40.

〔1985〕穂別町立博物館研究報告〔2〕、43-49.

〔1989〕穂別町立博物館研究報告〔5〕、43-48.

〔1989〕日本古生物学会報告・記事〔154〕、

96-116.

【モササウルス】

鈴木 茂、穂別町立博物館前学芸員が研究継続

公表論文：

〔1985〕穂別町立博物館研究報告〔2〕、31-42.

〔1985〕地団研専報〔30〕、45-66.

地徳 力、学芸員が別資料で研究開始

公表論文：

〔1987〕日本地質学会第94年学術大会

〔1990〕日本地質学会第97年学術大会

〔1990〕日本地質学会北海道支部報、

創刊号、45-46.

〔1991〕紀藤典夫と共著

穂別町立博物館研究報告〔7〕、9-14.

【サメ】

久家直之、京都大学大学院院生に研究委託

公表論文：

〔1984〕穂別町立博物館研究報告〔1〕、33-36.

投稿準備中

II 刊 行 物

【穂別町立博物館館報】

第7号、11頁 平成2年7月31日発行

【穂別町立博物館研究報告】

第7号、21頁 平成3年3月30日発行

■著者及び論文題名

松本達郎・利光誠一：

北海道穂別町富内北方からセノマニ
アンアンモナイトの発見。

1-8. pl. 1, 11.

紀藤典夫・地徳 力：

北海道穂別町産海トカゲ化石の地質
年代。9-14. pl. 1, 11.

一島啓人：滝川産アシカ科中手骨について。

15-21.

● 普及教育活動

I 博物館講座

【自然観察会】

実行事業無し

【化石クリーニング教室】

学芸補助員職未補充のため定期講座は閉講中。
学校などの団体で要望があれば随時開講とした。

II ホッピーだより(博物館広報)

【主な内容】

- 75号 平成元年度博物館収集資料について
2年4月
- 76号 穂別の地質を学ぶために＝その1＝
学問用語解説 2年5月
- 77号 穂別の地質を学ぶために＝その2＝
学問用語解説 2年6月
- 78号 穂別の地質を学ぶために＝その3＝
博物館用語解説 2年7月
- 79号 穂別の地質を学ぶために＝その4＝
地質学用語解説 2年8月
- 80号 穂別の地質を学ぶために＝その5＝
岩石用語解説 2年9月
- 81号 穂別の地質を学ぶために＝その6＝
地質時代用語解説 2年10月
- 82号 穂別の地質を学ぶために＝その7＝
穂別町地質構造発達史① 2年11月
- 83号 穂別の地質を学ぶために＝その7＝
穂別町地質構造発達史① 2年12月
- 84号 『羊・未・ヒツジ』そして、
なぜかアンモナイト 3年1月
- 85号 穂別の地質を学ぶために＝その8＝
穂別町地質構造発達史② 3年2月
- 86号 穂別の地質を学ぶために＝その9＝
穂別町地質構造発達史③ 3年3月

III その他

【穂別町教職員新任者研修】

平成2年4月19日：穂別町新任教職員(2名)
が館内研修

【自然体験王国北海道(穂別コース)】

平成2年7月30日、8月1日：自然体験王国北海道(穂別コース)の化石採集・クリーニングを指導

【町内学校の利用】

- 5月25日：和泉小学校5・6学年(16名)
6月27日：稲里小学校1～4学年(21名)
富内小学校1～4学年(15名)
6月30日：仁和中学校(8名)
7月6日：仁和中学校(10名)
8月30日：和泉小学校5・6学年(7名)
10月5日：道立穂別高等学校1学年(14名)
11月16日：稲里小学校(4名)
3月15日：穂別中学校特殊学級(3名)
3月20日：穂別小学校(30名)

【町外学校の利用】

- 7月5日：札幌市真駒内緑小学校(143名)
7月6日：静内小学校(73名)
7月13日：鶴川中学校(140名)
7月29日：清水町御影小学校(10名)
：美唄工業高等学校(10名)
8月26日：友朋高校；苫小牧支部(33名)
8月30日：札幌市立手稲西小学校(107名)
9月22日：美唄市立美唄中学校(156名)
10月23日：門別町厚賀小学校(34名)
1月13日：札幌市南ヶ丘中学校(28名)

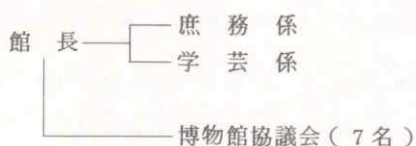
● 運 営

I おもなできごと

【平成2年度】

- 4月13日 滝川市美術自然史館長ほか(8名)来館
4月19日 穂別町教職員初任者研修(2名)
4月27日 秋田大学鉱山学部鉱山地質学科学学生(21名)来館
5月15日 上湧別町議会議員(6名)視察
6月5日 音別町教育委員(5名)視察
6月6日 農水省構造改善局係官ほか(10名)来館
6月15日 国土庁地方都市整備課(10名)来館
6月27日 博物館協議会開催
7月6～8日 館長;大恐竜展(千葉:幕張メッセ)視察
7月19～20日 学芸員;大恐竜展(千葉:幕張メッセ)視察
7月23日 カナダ、アルバータ州、ドラムヘラー市長夫妻視察
7月22日 中井均氏(中井地質古生物研究所)来館
8月1日 横山利雄氏(ニセコ町助役)来館
8月4日 浦河町文化財少年団(20名)研修に来館
8月8日 帝京技術科学大学地学教室(16名)研修
8月12日 HBCテレビ取材「ふる里180の旅」
8月21日 バーンズ, L.G.氏(ロサンゼルス自然史博物館)・木村方一氏(北海道教育大学教授)来館
9月3～5日 レイド, M.G.氏(ティーレル古生物博物館)来館
9月19日 ニセコ町教育委員(5名)視察
10月2日 十勝管内町村議会議長団(59名)視察
10月5日 胆振教育局長来館
10月7～10日 学芸員;日本地質学会(富山市)出席、恐竜化石産地視察
10月12日 共和町文化財調査委員(16名)視察
10月16日 胆振管内市町村教育次長会議(18名)視察
10月24日 為田進氏(北海道開拓記念館)来館
10月25日 フランコ, H.A.氏(フィリピン鉱山地球科学局)来館
10月26日 HTBテレビ取材「気分は天気730」
11月1日 北海道議会建設委員(16名)視察
11月8日 藤田隆氏(青森県佐井町農林経済課)来館
12月8～9日 学芸員;日本地質学会北海道支部例会出席
12月31日 今幸太郎館長;退職
1月22日 坂田俊文(東海大学情報技術センター教授)来館
3月7日 平取町教育委員(2名)視察

Ⅱ 組 織



昭和62年3月31日に、都田 哲学芸補助員（嘱託）が退職して以来、学芸補助員職は臨時職員で対応している。

職員名簿（平成3年3月31日現在）

館 長 野田 藤雄（教育長兼任）
 学芸員 地徳 力

博物館協議会委員（平成3年3月31日現在）

会 長 久保田瑞真
 副会長 荒木新太郎
 委 員 佐藤 嗣夫
 委 員 村上 隆
 委 員 小石川武美
 委 員 津野 昇
 委 員 大久保文夫

（平成4年7月31日まで）

Ⅲ 利用状況

【平成2年4月～3年3月；入館者数】

月	一 般	学 生	計	開館日
4	667	226	893	26
5	1,338	533	1,871	22
6	498	117	615	25
7	1,110	746	1,856	26
8	1,563	1,133	2,696	26
9	662	301	963	23
10	581	135	716	24
11	393	94	487	22
12	129	33	162	24
1	76	58	134	19
2	100	17	117	22
3	189	94	283	25
計	7,306	3,487	10,793	284

Ⅳ 平成2年度予算

Ⅴ 利用案内

費 目	予 算 (単位千円)
報 酬	3,208
共済費	361
賃 金	3,497
報償費	491
旅 費	653
需用費	6,090
	消耗品費 836
	燃 料 費 890
	食 糧 費 96
	印刷製本費 1,246
	光 熱 水 費 2,300
	修 繕 費 722
役務費	444
	通信運搬費 309
	手 数 料 70
	保 険 料 65
委託料	1,461
使用料及び貸借料	581
原材料費	150
備品購入費	1,736
負担金補助及び交付金	160
博物館費合計	18,840

【開館時間】 午前9時30分～午後4時30分

【休館日】 月曜日・祝日の翌日・毎月月末・
年末年始(12月30日～1月6日)

【観覧料】

	一般	小中学校・高校生
個 人	200円	50円
団体(10人以上)	150円	30円

【減 免】

- 1) 穂別町立小学校及び中学校が教育計画のため入館する場合
- 2) 国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査・研究のため入館する場合
- 3) 老人福祉法(昭和38年法律第133号)第14条に規定する町内の老人福祉施設が収容者の養護計画のため入館する場合
- 4) 精神薄弱者福祉法(昭和35年法律第144号)第18条に規定する町内の精神薄弱者福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合
- 5) 前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に教育長が必要と認める場合

穂別町立博物館報第8号

(平成2年度)

発行 1991年7月31日

発行者 穂別町立博物館

〒054-02

北海道勇払郡穂別町字穂別80番地の6

TEL (01454) 5-3141

印刷 さんようプリント

苫小牧市柏木町1丁目16-9

